

高稼働率下での装置・機器の耐久性

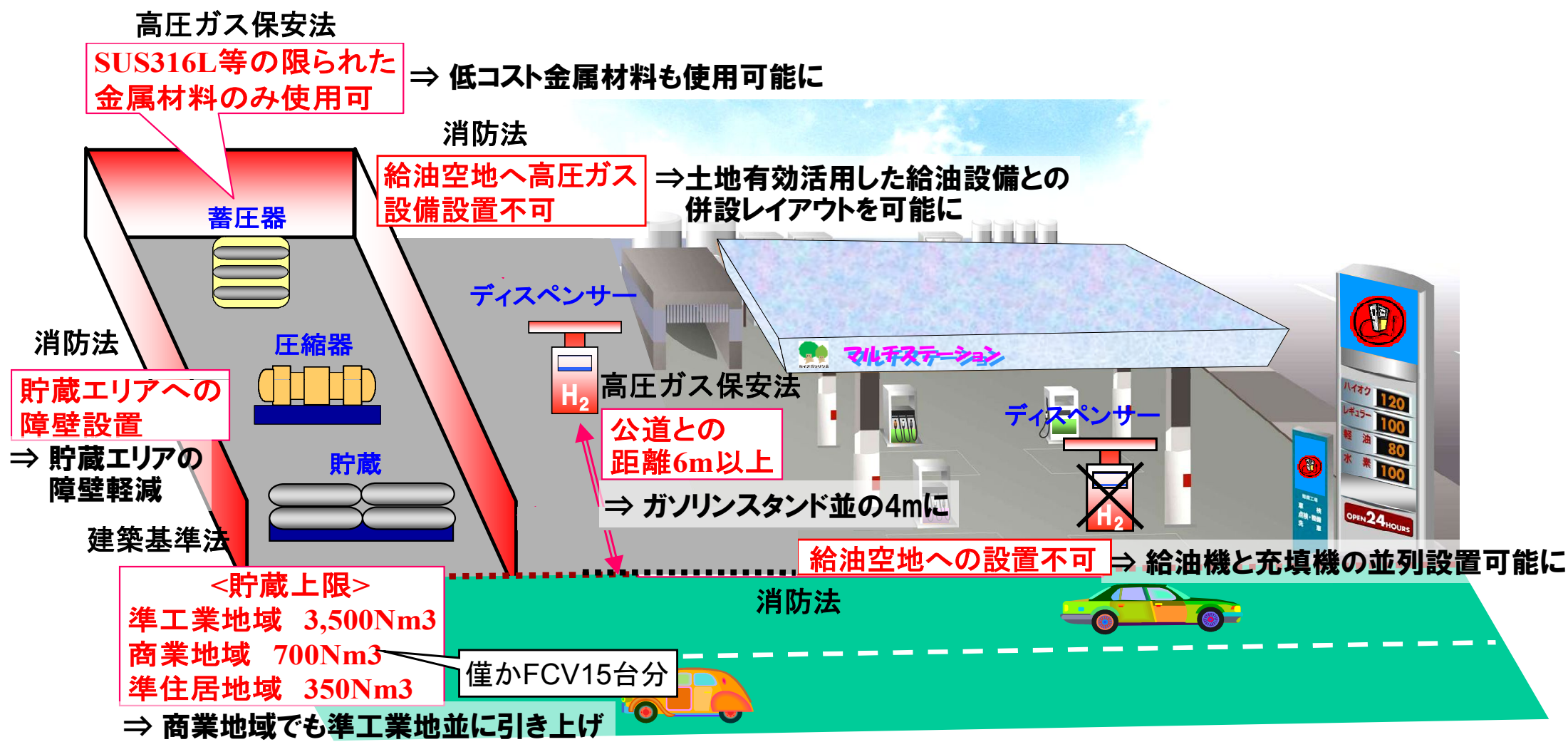
製造～輸送～貯蔵～充填のトータルシステムとしての技術検証

「水素供給・利用技術研究組合」

供給システム全体のフィールド実証・経済性評価、仕様・規格・運用方法標準化

# 規制見直しの課題

## 必要な規制見直し例



「水素供給・利用技術研究組合」実証データに基づく規制見直しの働きかけ

## ① F C V ユーザの視点 (ユーザ利便性)

水素ステーション等供給インフラ網のユーザ利便性検証

= 「ユーザ利便性を損なわないステーション配置の実現」  
「ガソリン等価以下の水素コストの実現」

## ② 水素供給者の視点 (事業成立性)

水素供給事業 (製造・輸送・ステーション) 成立性の検証

= 「ガソリンに対して価格競争力を持つ供給コストの実現」

## ③ 社会の視点 (社会受容性)

安全・安心・CO<sub>2</sub>削減に貢献する水素エネルギーシステム  
技術の検証

クラスター、FCV台数、  
ステーション数の想定

約154km<sup>2</sup>

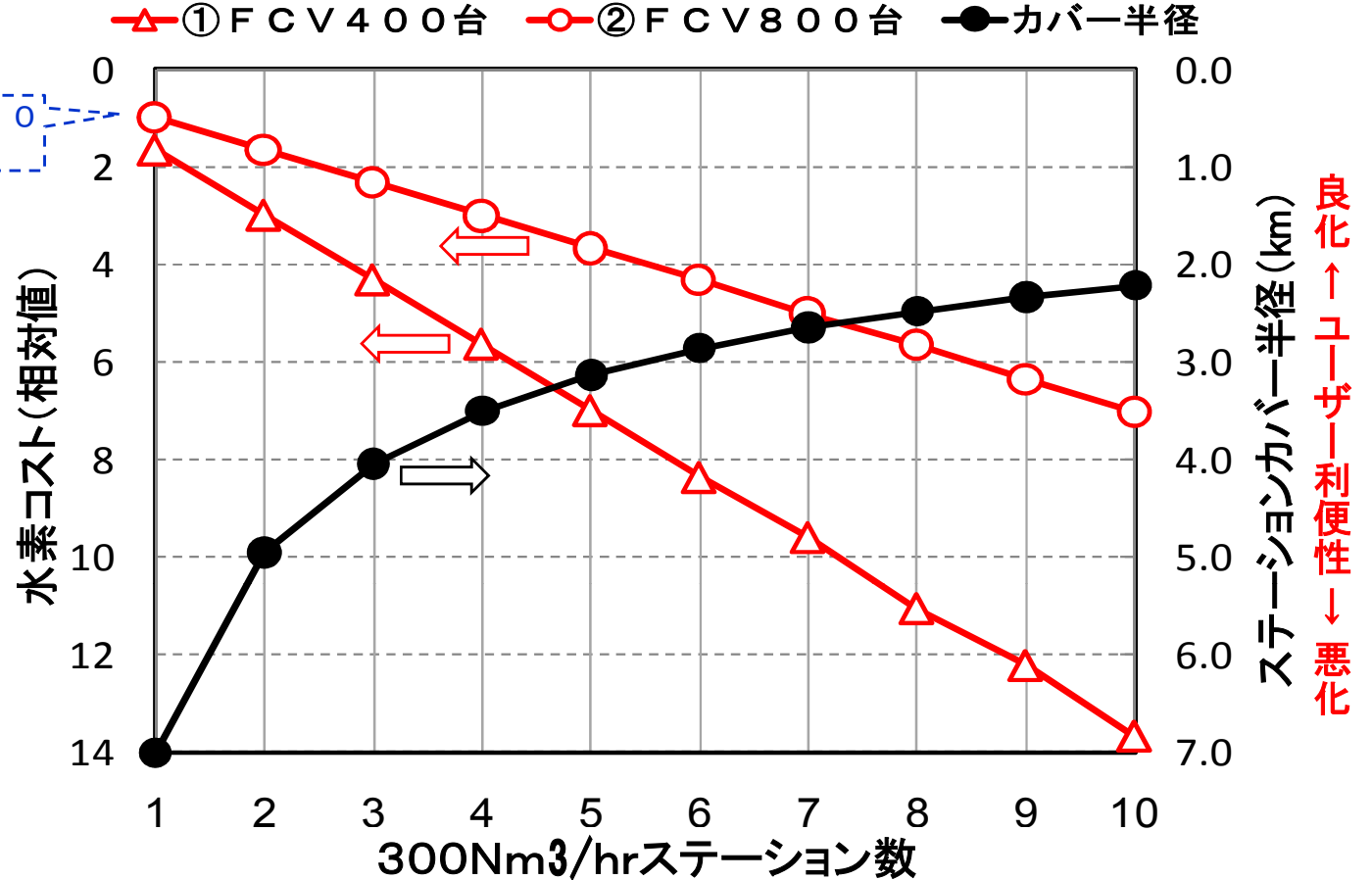
半径7.0km

FCV台数: ①400台  
②800台

ステーション数: 1~10箇所  
(すべて13hr/日運営)

水素コスト=1.0  
(基準点)

良化↑事業成立性↓悪化



- ユーザー利便性（カバー半径）と事業成立性（水素コスト）は相反する
- ユーザー利便性はステーション数のみ関係する
- 事業成立性は、FCV台数が少ない（＝稼働率が低い）と大きく悪化する

社会実証で、許容されるカバー半径とステーションの稼働率、運営コストの検証が必要

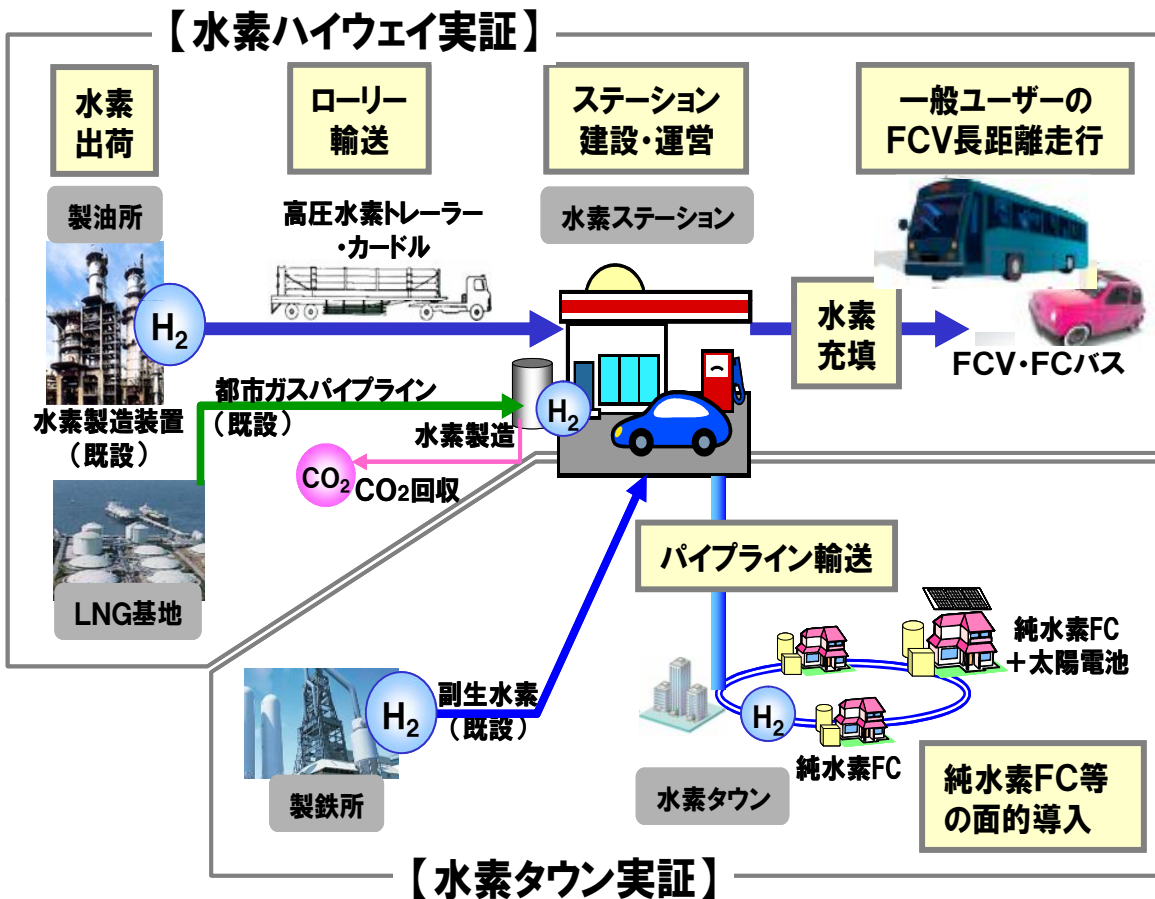
普及期は、いかに少ないステーション数でユーザー利便性を確保できるかも、水素コスト低減の大きな鍵

<2009年度~>

首都圏及び福岡地区にて先行実施  
 「平成21年度水素利用社会システム構築実証事業」

<2011年度~>

拡大を計画中

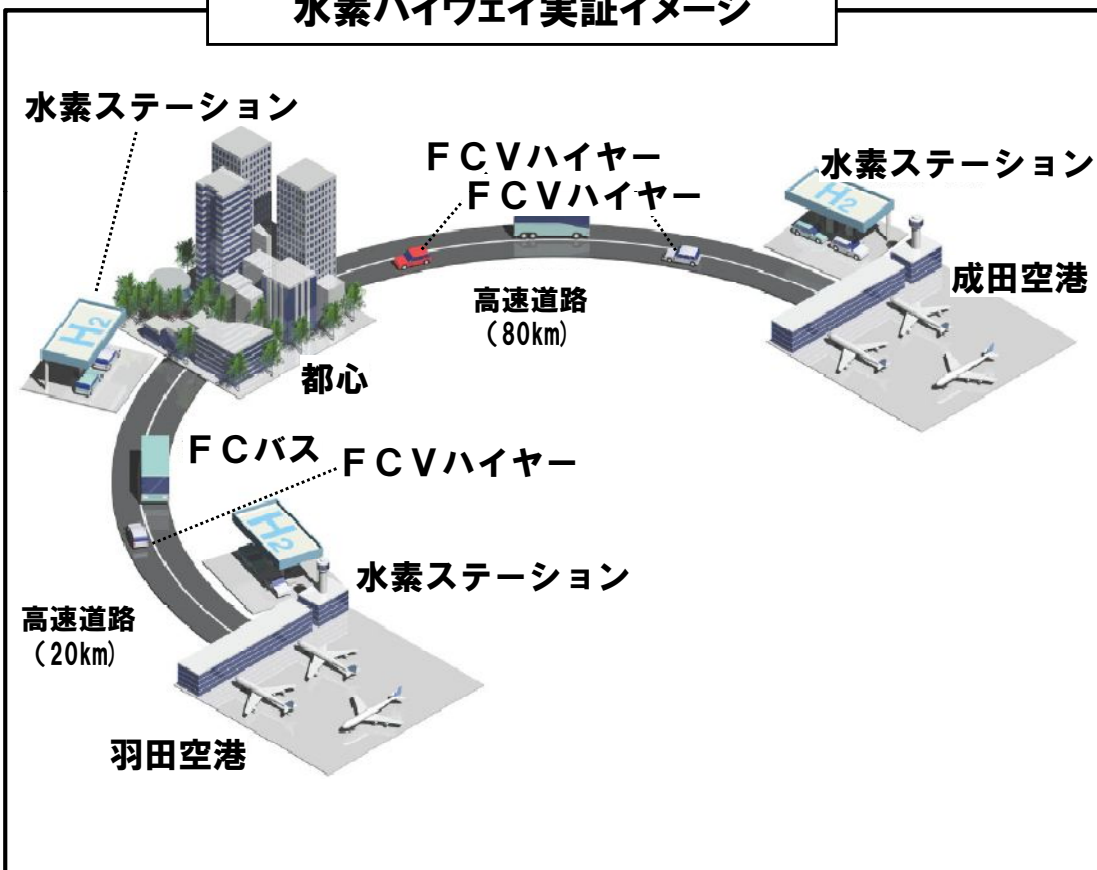




## 水素ハイウェイ実証(首都圏)

1. 水素ステーションを核とした水素供給網の面的実証
2. FCバス/FCVハイヤーによる高速道路を使った定期ルート運行

### 水素ハイウェイ実証イメージ



## 水素タウン実証(福岡)

1. 水素パイプラインによる水素供給技術の実証
2. 純水素型定置用燃料電池の面的運転実証
3. 純水素を燃料とする各種アプリケーションの実証

### 水素タウン実証イメージ



# 目 次

1. **燃料電池実用化推進協議会（F C C J）の  
取り組み**
2. **産業競争力懇談会（C O C N）の提言**
3. **水素供給・利用技術研究組合（H y S U T）  
の取り組み**
4. **おわりに**

# イノベーションへのステップとFCV

